

令和6年度の振り返り

<目次>

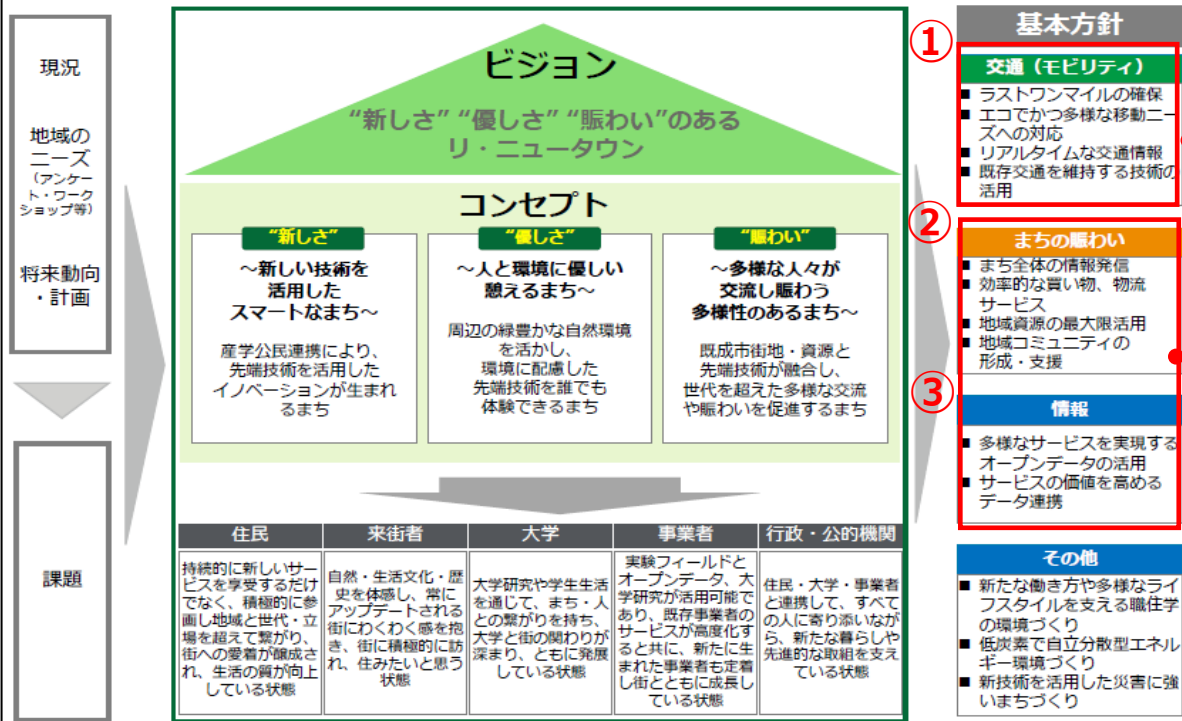
- R6年度協議会活動
- 南大沢スマートシティの上位計画における位置づけ（更新）
- 協議会・リビングラボの活動実績
 - ・令和6年度の協議会開催実績
 - ・共創ラボ(リビングラボ)の実施実績
- ①地域情報アプリへ取組
- ②新たなモビリティ導入に向けた取組
- その他調査等
 - 認知度アンケート調査

R6年度の協議会活動

➤ 実施計画Ver3の基本方針を踏まえ、R6年度の協議会やリビングラボの議論から、今後の取組は、「新たなモビリティ事業の導入」と「地域情報アプリの取組」を検討していくこととなりました。

6-1 スマートシティのビジョンとコンセプト

88



出典：南大沢スマートシティ実施計画ver.3より

基本方針①：交通

R6年度協議会活動

【第1回リビングラボ＜イベント型＞】

～モビリティ体験会～

- ▶ さまざまな車両を実際に体験し、南大沢エリアでのユースケースを想定
- ▶ 「特定小型原付」カテゴリーの認知度向上と交通安全啓発 など

基本方針②：まちの賑わい

基本方針③：情報

R6年度協議会活動

【プレリビングラボ＜事業者参加型＞】

【第2回リビングラボ＜利用者参加型＞】

- ▶ 地域情報アプリの構築の検討

具体的な取組への方針

基本方針①：交通

新たなモビリティ事業の導入

基本方針②：まちの賑わい

基本方針③：情報

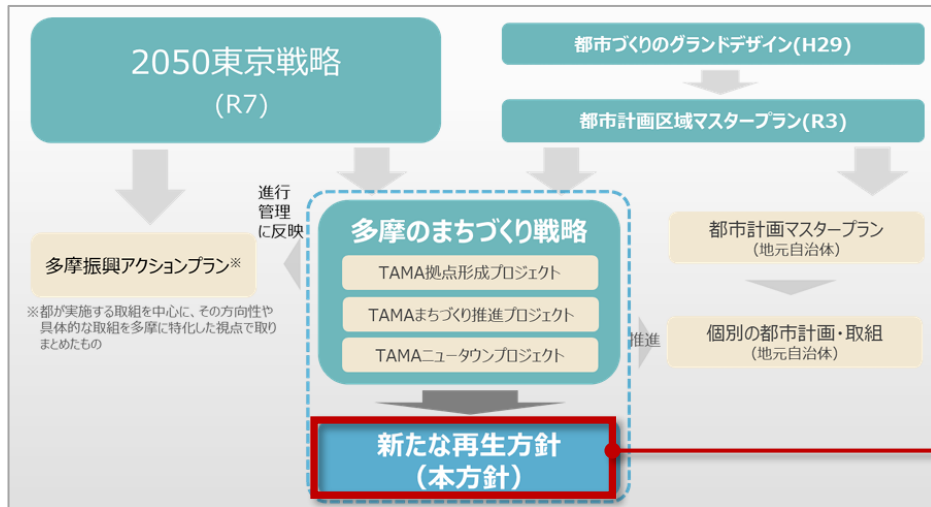
地域情報アプリへの取組

※R6都はピッチコンテストでスタートアップ企業を選定。R7に実証実験を実施予定

※R7年度に案をまとめ、年度末リリースを目標

南大沢スマートシティの上位計画における位置づけ（更新）

➤ R7年に公表された東京都の上位計画において、南大沢は多摩ニュータウンにおける3つの先行プロジェクトの1つに選ばれ、取組の方向性が示されました。



出典：多摩まちづくり再生方針P7より

～多摩ニュータウンの新たな再生方針～ (R7年4月)

《具体的な課題》

P46より

モビリティ	まちのにぎわい	情報・その他
- 丘陵地の高低移動の負担軽減 - 住宅団地から駅・バス停までのアクセス交通の確保 	- まちのイベント等の地域情報発信、個人のニーズに応じた多様な情報や快適な買い物サービスの提供 - 住民や来街者の回遊性・滞留性向上によるにぎわい創出 	- 誰もが安心して快適な地域の多様で即時性のある情報の活用や高度化 - 多様化するニーズを踏まえた新たな生活環境づくり 

住民ニーズを踏まえ、東京都立大学・地元自治体・地元事業者と連携し、新たな技術によってこれらの課題を解決していく

【取組の方向性】

・モビリティを核とした様々なスマートサービスを充実させ、都有地活用事業と連携して、更なるにぎわいを創出していきます。

P47より

民間事業者の創意工夫による新たなモビリティ・地域の情報を一元的に提供するアプリ等のスマートサービスを実装

新モビリティ※1

丘陵地の高低移動の負担を軽減



自動配送ロボット※2

買い物の利便性を向上



地域情報アプリ※3

様々な地域情報へのアクセス向上



※すべてイメージ画像

南大沢地区の更なるにぎわいを創出

南大沢駅北側都有地を活用したにぎわいの創出（アウトレットモールのリニューアルを予定）

協議会・リビングラボの開催実績

令和6年度の協議会開催実績

会議体・開催日	主な議題と地域情報アプリの議論経過
第1回協議会 2024年8月9日	- ご挨拶、協議会委員ご紹介 - 令和5年度の振り返り - 令和6年度の進め方 (ポイント) 都より、これまでの協議会の議論を踏まえ、今後、 <u>地域情報を一元的に提供するプラットフォームの構築を 委員等と協議しながら進めていきたい</u>と説明があった。 
第2回協議会 2024年11月11日	- リビングラボについて ➢ リビングラボの今後の進め方 ➢ プレリビングラボ実施報告 ➢ 第1回共創ラボ モビリティ体験会の企画概要 - 新たなスマートモビリティの導入に向けた取組について (ポイント) 地域情報ポータルwebアプリの導入に向けて、 <u>リビングラボにおける地域住民の実情を考慮し、 引き続き、協議会にて検討を進める</u>こととなった。 
第3回協議会 2025年3月6日	- 第1回共創ラボ モビリティ体験会の実施報告 - 第2回共創ラボの実施報告 - 認知度アンケート調査の実施報告 <u>地域情報アプリ</u>の検討状況 (ポイント) 都から<u>来年度の地域情報アプリについて 今後の進め方（案）について説明</u>があった。 

共創ラボ（リビングラボ）の実施実績

実施名称・開催日	概要
プレリビングラボ 2024年10月31日	• <u>地域情報アプリの骨子を検討</u>するため、協議会構成員及び関係者のうち、特にコンテンツやサービス等の具体的な<u>リソースを保有するメンバー間で意見交換</u>を実施 • 議論結果を元にアプリの輪郭を検討し、<u>ユーザーが参加する第2回共創ラボに向けたアプリ骨子案を作成</u> 
第1回共創ラボ 「モビリティ体験会」 2024年11月30日	• <u>新しいモビリティの導入ニーズ</u>の把握、新しいモビリティの<u>認知度と社会受容性の向上</u>、<u>移動の課題解決</u>に関心を持つきっかけづくり、南大沢スマートシティの認知度向上を目的とし、地域在住の方、地域を訪れる方に複数の<u>新モビリティを体験いただく試乗会および展示会</u>を実施 • 試乗会の<u>結果データを今後の実証事業やまちづくり検討の基礎資料として活用</u>、加えて<u>参加事業者の製品改善のために提供</u> • 都は上記の<u>結果データを参考とし、ピッチコンテストにおいてサービス提供者を選定</u> ※詳細は後掲
第2回共創ラボ 2025年02月06日	• プレリビングラボの議論を踏まえて事務局で整理したアプリ骨子を提示するとともに、地域情報アプリについて、主に<u>地域に暮らすユーザー目線で、必要な情報や発信したい情報等を掘り起こすためにディスカッション</u>を実施  

①地域情報アプリへの取組

アプリ開発の基本方針（案）

＜関係者ヒア・協議会・プレラボにおける主な意見＞

- ・使用頻度の高いアプリにするには**網羅性のあるコンテンツ**や**定期的な更新**が必要（関係者ヒア・協議会意見）
- ・**利用者層によって使いやすいUIが異なる**ので、デザイン等に工夫が必要（関係者ヒア）
- ・類似サイトの中で埋没しないよう、**ここでしか得られない情報を発信**することが重要（プレラボ・協議会意見）
- ・情報の価値を高めるには、**ストーリーに沿って情報が編集**されていることが重要（プレラボ・協議会意見）
- ・アプリ開発・運営への学生の参加など**大学教育との連携**は独自性を出すうえで重要（協議会意見）
- ・ビジネス展開を含め、**システムが継続できる仕組み**を考慮しておくことが必要（協議会意見）
- ・イニシャル・ランニングコストを抑える**工夫**が必要（協議会意見）

【情報発信のポイント】

- ▶情報の**網羅性**：各方面の情報をワンストップで一通り入手できる
- ▶情報の**鮮度**：常に最新の情報が更新されている
- ▶**差別化**された情報：他には無い高付加価値な情報が入手できる
- ▶利便性の高いUI：誰でも欲しい情報に簡単にアクセスできる

＜アプリ運営上の条件＞

- ・地元主体の運営管理
（**限られた運営予算**）

◆基本方針（案）

- ①**多方面の情報**を網羅（既存の情報源との連携 等）
- ②**最新情報の頻繁なアップデート**（スクレイピング、地元に精通した運営者 等）
- ③**ローカル情報の受信・編集・発信**（参加型掲示板、登録キュレーター 等）
- ④**利用者に優しいUI**（プッシュ通知、レコメンド機能 等）
- ⑤**ランニングコストの抑制**（手間のかからないシステム、地元企業の広告掲出 等）

②新たなモビリティ導入に向けた取組

新たなモビリティ導入に向けたステップ

実装開始

【第1回リビングラボ(モビリティ体験会)】

乗車体験を通じたユーザーニーズの把握

～乗車体験とヒアリングを実施～

- ・プロダクトについて
機能やデザイン満足度など
- ・事業スキームに関係する事項について
利用シーン・許容価格帯・所有形態 など

《STEP3》R7年度～ 新モビリティ実証実験

▶ コンテスト採択事業者によるサービスの実証事業

⇒ 技術的な課題・運営上の課題を検証し、解決策を検討

▶ 社会実装に向けて都、協議会メンバーの持つリソースを活用した支援につなげる

《STEP2》R6年度 新モビリティの導入検討

起伏に富んだ地形での移動の利便性向上を目指し、既存の公共交通機関とも連携しながら、地域住民のニーズに応えられる端末交通手段を検討

《STEP1》 R2～R5年度 将来ゴール設定

ラストワンマイルの移動について丘陵地の多い南大沢の特徴を踏まえて、利用者に応じた最適な移動手段の確保ができるよう、モビリティサービスを充実させる

これまで協議会で調査検討
実施計画ver.3で取り纏め

【ピッチコンテスト】 サービス提供事業者の選定

スタートアップの技術とアイデア
を活用して新たなモビリティを導入

【募集するサービスのイメージ】

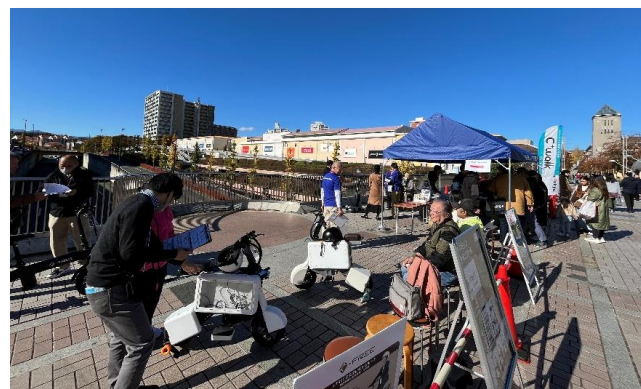
- ・ より多くの方が安全・安心に利用できるパーソナルモビリティのシェアサービス
- ・ グリーンスローモビリティなどを用いたラストワンマイルを補う送迎サービス

スタートアップを活用した実証実験に向けての取組（都との連携）

➤ 第1回リビングラボ（モビリティ体験会）

- ・当日は、数種類のモビリティ、日頃、乗車機会が少ない新しいモビリティの乗り心地を地域の方に楽しんでいただきました。
- ・試乗後、幅広い年代から新しいモビリティに求める利便性、操作性などの機能や利用想定シーンについてニーズ調査を行いました。

（モビリティ体験会）



【カーメイトのe-FREE 試乗の様子】



【ICOMAのtatamo! 試乗の様子】



【インタビューの様子】



➤ 実証実験を前提としたコンテストの実施（都）

令和7年1月6日
東京都都市整備局

ピッチコンテスト（UPGRADE with TOKYO 第45回）の結果について

第二回協議会にてご報告いたしましたピッチコンテスト（UPGRADE with TOKYO 第45回）を活用した『南大沢地区における新たなスマートモビリティの導入』について、昨年末の12月23日にコンテストが開催され、優勝者がLOMBY株式会社に決定されました。また、パーソナルモビリティを用いた実証事業を提案されたWHILL株式会社にも審査員特別賞が授与されました。今後は、実証事業の実施に向けた協議を行っていく予定です。なお、コンテストの様子はこちら（<https://www.youtube.com/watch?v=Aj6kvqUHoKc>）から動画でご覧いただけます。

【優勝者】

LOMBY 株式会社

＜提案概要＞

南大沢で走行中の自動配送ロボット「LOMBY」の機体製作技術や運行ノウハウをもとに、人の輸送を可能とする近距離モビリティを開発し、地域に根差したサービス実施



南大沢で実証実験中の自動配送ロボット



自動配送ロボットを改造して
人も乗れるモビリティに転換

【審査員特別賞】

WHILL 株式会社

＜提案概要＞

近距離モビリティ「WHILL」を用いた、ラストワンマイルをつなぐ移動環境の整備。
どれもが快適かつ安心・安全に移動できる四輪のモビリティのシェアリングサービスを実施



誰もが利用しやすいパーソナルモビリティのシェアサービス

登壇企業

- ・ 合同会社うなぎ企画
『南大沢地区のシニア層の移動や貨物を支援する新たなスマートモビリティ・サービスのご提案』
- ・ 株式会社モビリティワークス
『グリーンズローモビリティを用いた南大沢地区における交通アクセス機軸の向上』
- ・ LOMBY 株式会社
『超革新社会を加速化するロボット移動網の構築』
- ・ 株式会社 ZMP
『ロボットマネージメントシステム ROBO-HI とスマートモビリティ RakuRo を活用した南大沢における MaaS 実証実験にご提案』
- ・ WHILL 株式会社
『近距離モビリティでつなぐ南大沢地区ラストワンマイルの移動』

その他調査等（認知度アンケート調査）

認知度アンケートの実施概要

南大沢地域住民にアンケートを行い、スマートシティの認知度、住民生活における満足度、地域情報アプリに求める要素を調査しました

実施概要

調査目的	- 時系列調査を通して、南大沢スマートシティの認知度および地域満足度に対する変容の把握 - アプリ構築に向けた南大沢住民のニーズ把握
モニター対象者	- 南大沢駅周辺エリア居住者（15歳以上の男・女） - 性別毎の回収件数 - 男性131件、女性69件 - 年代毎の回収件数※1 - 若年層22件、中年層92件、高齢層86件
実施期間	・2025/2/12（水）～14（金）
回収件数	・200件※2
主なアンケート項目	- 南大沢スマートシティの認知度・イメージ - 住民生活における満足度 - 地域情報サイトの利用状況 - アプリのコンテンツ・UI

実施結果（抜粋）

調査項目① 取組テーマに関する課題感について※3

- いずれのテーマも「満足」または「普通」の回答が多く、**「不満」は少ない**結果となった
- 「環境」**に対する満足度が最も高く、南大沢の自然環境や環境を地域のリソースとして捉えていることが示唆された

調査項目② 認知度・イメージについて

- 南大沢スマートシティの認知度はR5からモニター**全体で微増**した
- 若年男性**における認知度の低下が見られた一方、**女性における認知度が各年代で増加**していた
- 南大沢スマートシティに対するイメージは、R5から大きな変化はなかった

調査項目③ 既存の地域情報サイトの利用状況について

- 既存の地域情報サイトを通して、モニター全体で**「買い物」「飲食店」**に関する情報を求める回答が多かった
- 高齢層では、**「医療」**に関する情報を求める回答が多かった

調査項目④ 地域情報アプリの新コンテンツ・UIについて

- 地域情報アプリに求めるコンテンツでは、**「おすすめ散歩」**や**「絶景スポット」「歩道のマップ」**等の情報を期待する回答が多かった
- 「ポイント付与」「クーポン配布」**機能への注目度が高く、形式は**「通常のアプリ（ダウンロードあり）」**の回答が最多だったが、年代によって傾向に差異が見られた

※1 各層の定義 若年層：年齢が15歳以上39歳以下 中年層：年齢が40歳以上59歳以下 高齢層：年齢が60歳以上 R6新規設問では当該分類を用いる

※2 回答モニター母数約300名（回答率約67%、調査会社の規定により詳細な数値は非公開） モニター数は変動するため、今後も同じ回収件数を確保できるとは限らない

※3 R5ペルソナ分析時に新たなプロジェクト抽出の視点として設定したテーマ